

ITを活用した毎日の授業

今川 佳紀

国際経済科

私が勤務する福井県立福井商業高校は商業系の高校ですが、国際経済科と呼ばれる学科があります。英語のコミュニケーション能力の育成、国際人としての感性、国際化の中でのビジネス感覚を育成することを目的に設立された学科です。比較的英語に興味関心のある生徒が集まっています。商業高校の1学科ですが、多くの生徒が大学に進学しています。ですから、扱う英語の内容は普通科のそれとは、さほど変わりません。違いと言えば、コミュニケーション能力の育成に主眼をおいているので、普通科よりはコミュニケーションがとられ、英語を実際に使う行事が多いことでしょうか。今回は、この場をお借りしまして、私が担任をしている国際経済科1年生の英語Iの授業で活用している『*Studyaid D.B. POLESTAR English Course I 指導用CD-ROM*』(以下*Studyaid D.B.*)についてお話をさせていただきます。

マルチメディアを活用した授業の難点

従来の形式の授業方法に加え、実際に音声を聞かせたり、画像を見せたりすると、カセットテープ・プレーヤー、オーバーヘッド・プロジェクター等様々な機材を持参し、セッティングしなくてはなりません。授業のたびに、これだけのいくつもの重い機材を教室に運び込むことだけでも大変です。しかも複数の機材のセッティングとなると時間もかかります。そのための授業準備にも時間がかかります。

通常、教科書とチョークで授業を展開する我々教師にとって、たとえ授業展開の面白いアイデアがあったとしても、これだけの機材と準備が必要となると億劫になってしまいがちです。ワンショットの授業でならなんとかがんばれますが、継続的に授業

で行っていくとなると準備の時間だけでも多くの時間を費やしてしまうことになりがちです。

マルチメディアとしてのコンピュータ

ところが、音声も画像も動画の提示もノートパソコン1台あれば教室で提示できてしまいます。準備も少しは必要ですが、様々な機材を持ち込んで多大な時間を準備にかける必要はありません。

しかし、教科書の内容について、従来の授業形態よりも継続的かつ効果的な授業を行っていくためには、コンピュータで提示する教材を自分で作らなくてはなりません。もしくは、なんらかのソフトウェアをインストールする必要があります。これまでの教科書については問題作成などの専用のソフトウェアはありましたが、教科書の内容を提示して効果的に授業を進めることを可能にさせるものはありませんでした。ハードウェア面では様々な展開が可能であっても、ソフトウェアもしくはデジタル教材という点で、まだまだ教室内でのITの実践というレベルには達していないように思います。

*Studyaid D.B.*の採用

校内LANも整備され、教室内でインターネットへの接続も可能になっていたのも、なんとかコンピュータを活用できないかと考えていました。ただ、授業そのものは教科書が中心であり、単にインターネットへ接続するだけでは物足りないし、なんとか教科書の内容を提示することをメインとし、補助的にインターネットを活用できないか、その試行錯誤をしていたときに、*Studyaid D.B.*というソフトウェアを紹介していただきました。

このソフトウェアは教科書の内容を提示できたり、教科書には掲載されていない写真と説明によるスライドショーが利用できたり、本文の付加的な説明な

どをポップアップ・ウィンドウで提示できたり、音声指導のツールも含まれていたり、まさにコンピュータ1台でできるマルチメディア的なソフトでした。

これなら、教科書を中心に、インターネットを使ったり、自分が作成したファイルなどを効果的に利用したりすることが可能であると思いました。教科書の内容に関する準備もそれほど負担ではありません。授業でのイメージが膨らみ、生徒の集中力とテンションを維持しながらコンピュータを活用した授業ができるのではないかと思います、とにかく試してみようということでこのソフトウェアの採用に踏み切りました。

実際の授業例

ここでは、私が英語 I (教科書: *POLESTAR I*) の授業でマルチメディアとしての *Studyaid D.B.* を活用している例を紹介しようと思います。

Studyaid D.B. はその名前が示すとおり、教科書を進めていく上での「補助的な」ものですから、実際の授業の流れやポイントは他の先生方が実践されている指導方法とそれほど変わらないと思います。次ページのチャートが私の一般的な英語 I の授業の流れを簡略化したものです。チャートの中で※印のついている箇所が *Studyaid D.B.* を使う場面です。

<Pre-Reading Tasks (※1)>

音声を流せるほかに、スクリプトすべてを表示したり、passage, question, answerなどを自由に表示することができます。これにより、Listening のフォローが楽にできるようになりました。



▲ スライド・ショーを利用した授業

<Slide Show (※2)>

今までの授業ではレッスンのテーマについて内容スキーマの活性化を図ることなく本文の導入を行っていましたが、スライド・ショーを使うことでレッスンの本文内容理解のための背景的な知識を持たせることができるようになりました。英語と日本語の両方の説明が流せますが、私の場合は英語の説明を聞かせて、英語で簡単なQ&Aをしたり、スライド・ショーを見ての自分の感想や意見を英語で言わせてたりしています。

<New Words (※3) と Listening (※4)>

これについては従来のカセットテープ・プレーヤーを使った展開と変わりませんが、1単語だけを繰り返すことができたり、単語全体を何度か繰り返したりすることができます。本文についても、段落ごとに聞かせたり、パート全体を繰り返し聞かせたり、いろいろな聞かせ方ができます。

<Target Sentence (※5)>

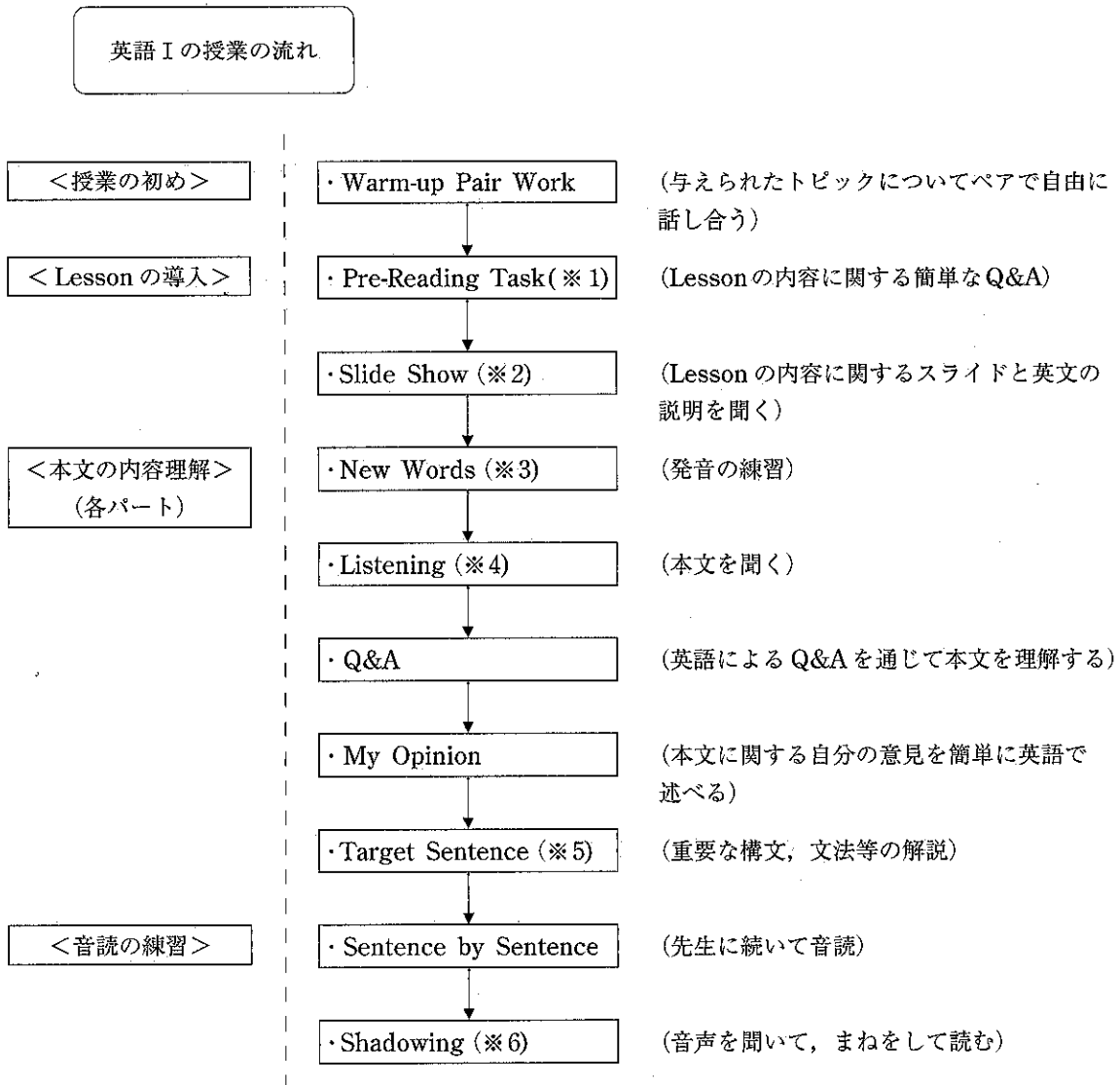
重要な文法事項や構文は Target Sentence として、日本語で念入りに解説をしています。黒板を使うときもありますが、いくつかの事項については、*Studyaid D.B.* のポップアップ・ウィンドウによる説明が使えるので重宝しています。

<Shadowing (※6)>

リズムやイントネーションなど音読の指導にも重点を置いています。流れてくる音声を聞きながらそれを全くまねて音読するというものが Shadowing です。

また、*Studyaid D.B.* を使うためにノートパソコンを毎回教室に持っていくことで、レッスンに関連したテーマのウェブサイトへ直接アクセスしたり、PowerPoint で作成した教材を提示したり、映像を流したり、視覚的な教材を活用しています。

教室での使用ではないのですが、*Studyaid D.B.* は強力なデータベース機能がついており、何かと便利な点がたくさんあります。予習プリントや復習プリント、単語小テスト、文法・熟語小テストがあり、Word や一太郎で編集できます。また予習プリントや復習プリントなどの内容把握の問題はよくできていると思います。復習プリントの内容把握の問題については考査の問題として採用する場合があります。



必要な環境

コンピュータを教室でマルチメディアとして活用するためには、ノートパソコンのほかにプロジェクター、スクリーン、コンピュータに接続するスピーカー、LANケーブル、延長コードが必要です。これだけ挙げると結構大変じゃないかと思われる方も多と思いますが、基本的にはすべてコンピュータと接続するだけで、ほとんど調整は必要ありません。幸いにして本校には各教室に固定式のスクリーンがあります。スピーカーもリスニング用なので高価なものはありません。プロジェクターを置く台は丈夫で高価なものがありますが、私は引き出しが縦に3段ついたプラスチック製の整理箱を使用してい

ます。ケーブルやスピーカーなどはその引き出しにしまっているので授業のたびに教室へ持っていくことはありません。プロジェクターについては、IT係という担当を作ってその生徒が休み時間の間にノートパソコン以外のセッティングをすることになっています。従って、私はノートパソコンと出席簿を持って教室に行き、生徒がペア・ワークをしている間にケーブルを接続するだけになります。

体験的にこの環境がベストであるとは思っていません。コンピュータ・ルームの座席はコンピュータのオペレーターの指導がしやすい配置になっていて、通常の授業形態には不向きです。各教室に固定プロジェクター、固定スピーカーがあればよいですが現

在ではまだそのような環境は期待できません。この点については、まだITをフルに活用できる教室環境になっているとは言えないでしょう。

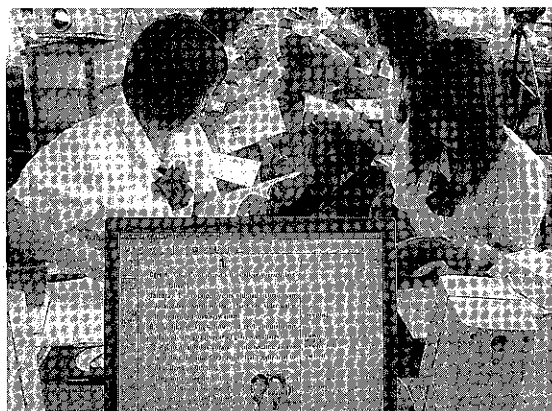
今の段階では、可能であればの話ですが、一般教室のような座席配置でプロジェクターやスピーカーが固定されている特別教室があって、各教科担当がその教室で授業をするというのが一番負担のない形態だと思います。

現在私の行っている方法は、もちろん多少の準備は必要ですが、後述するメリットを考えると「これくらいの負担なら」という範囲に収まる程度のもんです。

授業でコンピュータを使うメリット

ここでは、授業でコンピュータを使うメリットを経験的な観点から挙げさせていただきます。

1. 授業での生徒のテンションが維持できるようになりました。視覚的にも音声的にも1つのパターンに陥らないので生徒は1時間の授業の中で様々な活動を経験できます。
2. ポインター(と言ってもただの棒ですが)でスクリーンに提示された本文を追いながら説明をします。ので、どの部分が説明されているのか明確になり、生徒の理解の程度が深まりました。
3. 顔を上げて話を聞くようになりました。スクリーンを見ることにより、生徒はこちらを見て話を聞かなくてはなりません。生徒が集中しているかどうかも確認できます。
4. 生徒の興味関心が広がり始めました。スライド・ショーや教科書の挿絵のポップアップ・ウインド



▲ 生徒のようすを確認しながら操作できる

ウによる説明。インターネットを使うことで、本文以外の情報にも興味を持つようになりました。

私からの提案

副次的なメリットもあるのですが、紙面の関係上制限がありますので、最後に私から僭越ながらこの記事を読んでいる皆さんに提案があります。

福井県の場合、ITを授業で使ってみたいという先生方が実はたくさんいらっしゃいます。でもその方々のお話を聞くと、準備が大変ではないかとか、どうやって活用したらよいかわからない等の答えが返ってきます。確かにやってみないとそう思われるかもしれませんが、実際には「思うより行うが易し」というところがあります。ですから、ITが授業で使えないかなと思われたら、「とにかくやってみる」ことをお勧めします。そして「やりながら考えて、試行錯誤する」と、自分の目指す方向性が見えてくるのではないかと思います。

ITはこれから、私たちの考えが及ばなかったことを可能にさせていくと思います。その一部を取り入れることによって、もっと楽しい授業ができるようになっていくでしょう。

まだまだ、ITを授業で活用するには、研究や努力が必要かもしれません。しかし、いつの日か、チョークを持っていく感覚でノートパソコンを授業に持っていく日が来るのではないかと思います。

(福井県立福井商業高等学校教諭)